



養護盲老人ホーム 福寿園 monthly

平成 23 年 6 月 15 日 水) 発行 第 015 号

東日本大震災から早 3 ヶ月が経ちます。4 月末には私どもの施設の職員が福島盲老人施設へ派遣職員として参加させていただきましたが、被災地の生々しい現状と、その中で大変ながらも前向きに頑張る人々を目の当たりにし、今自分たちに出来る事は何だろう、と皆で改めて見つめ直した機会となりました。

そのような中、福寿園では『がんばれ日本！！東日本応援チャリティスナック』を開催いたしました。「がんばろう日本。」を合言葉に、養護・特養合わせて多数の入所者が参加し、盛大に行われました。参加者は応援メッセージの書かれたハチマキを締め、応援ソングが流れる中、各テーブルを義援金の募金箱が回り、各自が思いを込めて寄付をされました。入所者の皆さんの温かい応援の気持ちが、少しでも被災地の皆様の力になればと願っております。そして、一日も早い被災地の復興をお祈りいたします。



震災は他人事ではありません。施設では大切な命をお預かりしております。年に 3 回実施される避難誘導訓練は施設の防災体制を考える貴重な機会です。今回の震災を受け、明日は我が身と考え訓練にも必死です。入所者の皆さんも率先して訓練に参加されます。また、地元消防署の協力のもと、救急法や、三角布の活用法なども学び非常時に備えています。



《クラブ紹介 其の9 ～おたのしみクラブ～》

当クラブでは、手芸、俳句、朗読、おやつ作り、映画鑑賞など、皆さんのリクエストに添いながら、障害の壁を越えて、誰もが気軽に参加できるような雰囲気の中でクラブ活動を行なっています。

昨年は布草履作りを行いました。視覚障害者の方も昔の感覚を思い出し、布を編んで草履を完成させました。



ゆず茶作りを
しました♪



なんちゃってエステ
体験です♪



【ボランティアのかかわり方（2）】

前回は定期的にお越し下さるボランティアの皆さんとのかかわりについてご紹介いたしましたが、今回は不定期でお越しになる方について紹介いたします。

その中で多くを占めるのが地元の子供たちとの交流です。特に3学期になると近隣の幼稚園児や小学生が学芸会や発表会で準備した演目を園の舞台上で披露するために訪問して下さいます。子供たちの熱演に、園生の皆さんは身を乗り出しながら声援を送られます。

また施設を慰問される団体の来園もここ最近増えてきています。民謡や舞踊を披露される団体、大正琴の演奏をされる団体、一般の歌謡曲にゲームを交えながら披露される団体、混声合唱団の合唱披露など実に様々です。こうした団体の来演は特に足腰が弱くなり、なかなか外に出ることの難くなった園生の皆さんにとって楽しみのひとつとなっています。

定期・不定期いずれのボランティアの皆さんとのつながりは一朝一夕でできたものではなく、30年という長い年月の中で紡がれた大切な絆です。ともすれば閉鎖的になりがちな施設生活にあって、園生の皆さん方が地域社会とかがわりになれることは大きな刺激になり、ボランティアの皆さんの働きなくしてその目的は達せられません。今後もボランティアの皆さんとのかかわりを大切にし、地域に開かれた施設として地元の方に認知していただけるよう努力していきたいと思っております。



生活相談員より

ショートステイの受け入れも随時行っております。

入所依頼者はありません。入所相談等ありましたら、ぜひご連絡下さい。よろしくお願いいたします。

平成23年5月15日 水)現在

定員 80名 現在入所者 80名

ショートステイ 定員4名 現在入所 2名

担当者 生活相談員 山森達也 主任支援員 林美恵子

〒441-3413

愛知県田原市六連町神/釜 9-3

TEL 0531-27-0008

FAX 0531-27-0828

URL <http://www.fukujuen.or.jp>

E-mail honbu@fukujuen.or.jp

